

ながはま見聞録

Nagahama Hotnews

このコーナーは、長浜の見どころ、市民の皆さんの活動の様子やまちで見かけたほっとな話題を紹介し、あなたが知っている旬の話題などがあれば、市民広報課(☎65-6504)までお知らせください。

12月11日(金)

貴重な能舞台が特別公開

今年7月に国の登録有形文化財に登録された「中川家住宅能舞台」で、能舞台の特別公開とあわせて、能「竹生島」の能装束が展示されました。

この能舞台は、長浜で活躍していた能楽師中川清氏が昭和6年に創建したもので、嗣子である中川雅章氏と2代にわたって地域の能楽文化の興隆に取り組み、守り継いできました。長浜の芸能を支えた歴史ある能舞台を見る貴重な機会となりました。



12月14日(月)

イルミで交通安全+疫病退散

長浜警察署のマスコットキャラクター「ひよたん」と、疫病の流行を防ぐ妖怪「アマビエ」を融合させたキャラクター「あまひよ」のイルミネーションが長浜署にお目見えしました。

長浜署の依頼を受けてイルミを制作した「こほく地域づくり協議会」の松山久夫理事長は、「新型コロナの影響で『こほくイルミの広場』開催を断念していましたが、思わぬ形で地域を超えた活動ができました」と喜びを語りました。

12月14日(月)

イルミで地域に元気を

木之本町杉野の集落入口の広場に色とりどりのイルミネーションが設置され、行き交う人々の目を楽しませました。

杉野地区地域づくり協議会が年末に実施しているもので、今回で4回目。コロナ禍で地域イベントや行事の中止が相次ぐ中、「明るい話題を届けたい」との思いを込めて設置されました。

青い電飾で滝をイメージした「ナイアガラ」をはじめ、ツリーや動物をモチーフにした楽しいイルミが集落を彩りました。



12月15日(火)

一年の最初の火、清らかに灯される

日本最古の神事といわれる火鑽神事が長浜八幡宮で執り行われました。

この神事は、忌火(清浄な火)で様々な災いを払う特殊神事とされています。忌火は、古代からの手法で起こされ、短時間で容易に灯すことができれば来年の運気は良好といわれています。今回は速やかに火が起こされ、今年は良い年になるのではと期待されます。

長浜市公式 SNS

- 長浜の催しや風景など、自慢の一枚をInstagramに投稿してください。長浜市公式Instagramアカウント「#みんなのちょびっく」で紹介し、詳しくは市ホームページをご覧ください。
- 見聞録のイベントは市公式 Facebook ページでもさらに詳しくみることができます。



▲市ホームページ



▲ほっとにゆ〜す

12月27日(日)

「幻灯の夕べ」～町の今昔に思いを馳せる～

木之本町木之本の明楽寺で、昭和から令和にかけて地元で撮影された映像を放映する「幻灯の夕べ」が開催され、山門のスクリーンに映し出された映像を住民ら約50人が鑑賞しました。

この催しは、「GOTOきのもと はっこう商店街へ」の企画の一つ。地元出身の美術教師が8ミリフィルムで撮影した伝統行事やレトロなバスが走る昭和の映像などが映し出され、懐かしい木之本がよみがえった一夜になりました。



1月9日(土)～

コラボで新しい魅力

長浜に春をもたらす風物詩「長浜盆梅展」が開幕しました。

記念すべき70回目を迎えた今回の見どころは、趣向を凝らした展示です。切り絵作家の早川鉄兵さんの作品とのコラボでは、動物たちと盆梅のファンタジックな世界を表現。期間限定となる「鳥取大山和傘」との和の競演では、彩り豊かで幻想的な空間が創り出されています。3月10日(水)までの会期中は、様々な催しも予定されています。

1月9日(土)～11日(月・祝)

演劇で夢と元気を届けます

市内の若手演劇人でつくる「はまかるエンゲキヴ」が、日頃の成果を発表しようと音楽劇「とりあえずあんみつ！」を公演しました。脚本や劇中の歌、衣装などすべてが完全オリジナル。自分たちで作上げた舞台を熱演しました。

個性豊かな女性4人の友情を描いたこの物語。共感でき、笑いあり、涙ありのストーリーと役に溶け込んだ出演者の自然な演技に惹き込まれました。



1月10日(日)

花火で新成人をお祝い

昨年12月に開幕し、3月下旬まで楽しめる「長浜・北びわ湖大花火大会」。この日は新成人へのお祝いをテーマに打ち上げられました。

豊公園周辺には、真冬の澄んだ空を彩る花火を一目見ようと訪れた新成人や、花火の美しさを写そうとカメラを向ける人の姿も。次々に打ち上げられる花火が湖面を染めるたびに、笑顔の花も咲きました。